Haydn Sinfonietta Tokyo Nr.124

周防徳山オペラ・公演２０２４

PSICHE (1767)

～

Opera Seria : aus den Metamorphosen des Apuleius "der Golden Esel"

「プシュケ」(1767)

～オペラ・セリア：ギリシャ・ローマ神話、

アプレイウスによる「メタモルフォーゼン（変容）；黄金のろば」に基づく

台本：マルコ・コルテッリ（1719-1777；ウイーン宮廷詩人）

Libretto: Marco Coltellini

作曲：フローリアン・レオポルド・ガスマン（1729-1774）

（ウイーン宮廷歌劇場総監督、アントン・サリエリの師匠）

Musik: Florian Leopold Gassmann

２６０年ぶり世界復興初演！

【演奏会形式：抜粋・伊語・原語上演】

２０２４年８月３０日（金）１８時開演（17.30 開場）

周南市文化会館大ホール（山口県）

［JR 徳山駅（新幹線のぞみ号、さくら号停車）北口より北へ、タクシーにて約３～５分］

ソプラノ：矢澤 知嘉子（プシュケ）*Chikako YAZAWA, Psiche, Sp.*

オペラ合唱団

指揮：スティーヴェン・ドミニク・エレリ

DIRIGENT & LEITUNG: STEPHEN DOMINIC ELLERY

管弦楽：徳山オペラ管弦楽団 Tokuyama Oper Orchestra

リーダー：福本 牧, *Leader; Maki FUKUMOTO,Violino*

通奏低音：小原 圭, *Basso Continuo; Kei OBARA,VC.*

全席自由：当日２,５００円（前売２,０００円）

チケット販売：周南市文化会館　TEL:0834-22-8787

主催・お問合せ：徳山オペラ事務局・edition HST 廣實 TEL:050-5050-2907 e-mail: tokuyamaopera@gmail.com

協力：プラハ国立博物館音楽資料室、ブルノ国立博物館、ナポリ・ペトロ音楽院図書館

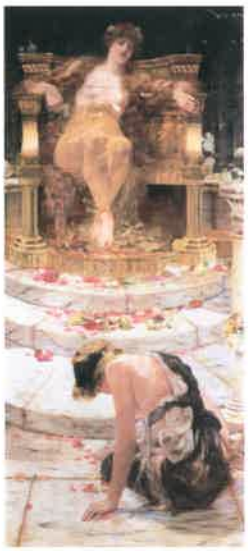
ウイーン国立図書館音楽資料室、株式会社シンフォニー・音楽教室

プシュケ（『アモーレとプシュケ』 *"Amore e Psiche"*；あらすじ）

【プロローグ】　グニダス国の３人の王女はいずれも美しく、中でも末のプシュケの美しさは美の女神、ヴェネレ（ヴィーナス、ウェヌス）へ捧げられるべき人々の敬意をも集めてしまうほどであった。人間の女に負けることなど思いもよらなかったヴェネレは、息子アモーレ（キューピッド、クピド）にその愛の弓矢を使ってプシュケに卑しい男と恋をさせるよう命じる。悪戯好きのこの愛の神は喜んで母の命令に従うが、誤って自分をも傷つけ（矢を自分のハートへ射り）プシュケへの愛の虜となってしまう。 プシュケに求婚者が現れないことを憂いた父母はアポロの神託を受けるが、その神託とは、「山の頂上に娘を置き、『全世界を飛び回り神々や冥府でさえも恐れる蝮のような悪人』と結婚させよ」という恐ろしいものであった。悲しむ人々の中プシュケは一人神託に従うことを決意し、山に運ばれる。ゼピュロスがこの世のものとは思えない素晴らしい宮殿にプシュケを運び、宮殿の中では見えない声が、この中のものはすべてプシュケのものだといい、食事も音楽も何もかもが心地よく用意されていた。夫は夜になると寝所に現れるのみで姿を見ることはできなかった。

【オペラ】　宮殿での生活を楽しんでいたプシュケだが、やがて家族が恋しくなり、渋る夫を泣き落として二人の姉を宮殿に招く。プシュケの豪華な暮らしに嫉妬した姉達は、姿を見せない夫は実は大蛇でありプシュケを太らせてから食うつもりであると説き、夫が寝ている隙に剃刀で殺すべきであるとけしかけた。この言葉を信じたプシュケが、寝ている夫を殺すべく蝋燭を持って近づくと、そこには凛々しい神の姿が照らし出された。驚いたプシュケは蝋燭の蝋を落としてアモーレに火傷を負わせてしまう。妻の背信に怒ったアモーレはその場を飛び去る。

姉達の姦計にようやく気づいたプシュケは姉達の元へ行くと、今度はアモーレは姉達と結婚するつもりだと嘘を教えた。喜んだ姉達はゼピュロスが宮殿へ運んでくれると思い、断崖から身を躍らせたが、風は運ばず、姉達は墜落してばらばらに砕けた。



一方ヴェネレは息子の醜聞に激怒し、自らの接吻を与えるという懸賞までかけてプシュケを捕らえようとした。恐れたプシュケはケレースに庇護を求めるが、ケレースは「ヴェネレとのつきあいがある」との理由で拒否した。そこで今度はユーノーに庇護を求めるが、ユーノーは「逃亡した奴婢をかくまってはならないことになっている」と法律を理由に拒否した。

かくて、愛を追いながらも世間のしがらみに行き場所をなくしたプシュケは、観念してヴェネレのもとに出頭した。ヴェネレはプシュケを捕らえて折檻し、次々と無理難題を押し付けた。しかし、大量の穀物の選別を命じられた際はどこからともなく蟻がやってきて手助けしたり、凶暴な金の羊の毛を取ってくるよう命じられた際には河辺の葦が羊毛の取り方を助言してくれて、竜の棲む泉から水を汲むよう命じられた際はアモーレに可愛がられていたユーピテルの大鷲が水を汲んで来てくれるなど、不思議な助けを受けてヴェネレの難題を乗り越える。

業を煮やしたヴェネレは息子アモーレの火傷の介抱で衰えた美貌を補うために冥府の女王プロセルピナに美をわけてもらってくるよう命ずる。首尾よく美をわけてもらったプシュケだが、自分の容色も衰えアモーレの愛も失うのではと不安になり、箱を開けないよう警告されていたにもかかわらず開けてしまう。しかし、中には冥府の眠りが入っていた。

傷の癒えたアモーレは昏倒している妻から冥府の眠りを取り去って箱に集め、ユーピテルにとりなしを頼む。ユーピテルはアモーレが良い女を見つけたら紹介することを条件にとりなしを了承する。ユーピテルはプシュケに神の酒ネクタールを飲ませ神々の仲間入りをさせた。プシュケはもう人間でないのだから身分違いの結婚ではないと説明され、ヴェネレもやっと納得した。

【エピローグ】　かくて魂は愛を手に入れ、二人の間にはウォルプタース（「喜び」、「悦楽」の意）という名の子が生まれた。女神となったプシュケが絵画に描かれるときには、蝶の翅を背中に生やした姿をとる例が多々見られる。

（アプレイウス『黄金のろば』より）

フローリアン・レオポルド・ガスマン（*Florian Leopold Gassmann; 1729-1774*）

1729 年チェコ、ボヘミア地方北西部ブリュックス（モスト）生まれ。　地元の祭りでのハープ演奏で自信をつけ、父親の反対を押し切り音楽家を志し旅に出るが、挙げ句の果てイタリアの橋の上で呆然としているところを助けられ、のちのモーツアルトの師にもなるマルティーニ神父の弟子となる。　その後、1763 年ウイーン上京し、宮廷歌劇場作曲家に任命され、歌劇場総監督まで上り詰めた。しかしながら 1770 年、ローマでのカーニヴァル新作オペラ初演への馬車での事故に遭い、1774 年死去。　弟子にサリエリがいる他は短命のためか、楽史から消えてしまった。

映画『アマデウス』(1984)では、ガスマンの後継者・歌劇場総監督ジョゼッペ・ボンノ *(Giuseppe Bonno; 1711-1788)* が登場する。 マリー・アントワネットの音楽教師であったグルック *(Christoph Willibald Gluck 1714-1787)* の提唱するオペラ・リフォーム（改革）；当時の主流であったお笑い・接待オペラを否定し、登場人物の感情表現を軸とした作品　～しかしながら当時は普及せず１９世紀ワーグナーの出現を待たねばならなかった）「オルフェとエウリデーチェ（1765）に感化されたガスマンは「プシュケ」を 1767 年、舞台化した。

矢澤 知嘉子（ソプラノ；*Chikako Yazawa, Soprano)*

国内大学卒業後、ウィーンにて声楽を学ぶ。第２７回霧島国際音楽祭アンナ・トモワ＝シントウ氏マスタークラス修了。
徳島文理大学、ウィーン国立音楽大学共同主催第９回インターナショナル夏期講習会にてラルフ・デーリング氏マスタークラス修了、修了演奏会出演。
第５回東京声楽コンクール第２位（１位なし）。第２回横浜国際音楽コンクール第３位。
第２２回アジア国際文化芸術フェスティバル銀賞。
第９回大阪国際音楽コンクールエスポワール賞。
第１２回及川音楽事務所新人オーディション第１位。
コンサートをはじめ新宿プリンスホテル、軽井沢プリンスホテルなどのディナーショーにも出演。
東大和市音楽連盟会員、行田アンサンブル協会会長、ラ・メディテラネア所属、国際芸術連盟専門家会員。
2020 年、「切なき恋…そしてコロラトゥーラアリア」CD リリース。

スティーヴェン・ドミニク・エレリ（指揮・監督；*DIRIGENT & LEITUNG: STEPHEN DOMINIC ELLERY*）

ロンドンを拠点とする音楽家。ヨーロッパ、アジア、ラテンアメリカでオーケストラを指揮。ロシアでイリヤ・ムシンから指揮を学び、母親と一緒にジャズやファンクなどを演奏して育った。特にポーランドのオーケストラや歌手と幅広く協力してきた。
ロンドンではスタニスワフ・モニューシュコ(*Stanisław Moniuszko;1819-1872)* の多くのオペラの演出を企画し、指揮。
10 月にはロンドンを拠点とするポーランドの歌手やダンサー、英国とポーランドからのソリストのキャストとともにモニューシュコのオペラ「貴族の言葉」*"Verbum Nobile"*と「いかだ乗り」*"Flis"*の新作をポーランド社会文化センター*POSK* で発表する。
2024 年のハイライトには、メキシコのビャウィストクでのコンサートや、ペンデレツキ、ショパン、バルトークを演奏するジェシェフ・フィルハーモニア・ポドカルパッカとのデビューコンサートが含まれる。世界中でパフォーマンスを行っており、今年のツアーはウクライナのリヴネ *Рівне* まで延長された。
また、サックス奏者として音楽祭に出演し、レコーディングを行っている。
1989 年にベルリンの壁が崩壊したとき、彼はたまたまベルリンにいて登って遊んでおり、その姿が多くの写真家に撮られた。